

おひさま

・「園長先生のクラスって、作れないのかなあ?」「もし作ったら、入りたい人が多すぎて困るかもね。」「そんな時はさあ、トイレのスリッパをよく並べている子どもと、元気で、仲良く、楽しく遊んでいる子どもだけを選べばいいわい。」「みんな、そんなこと、けっこうやっているよ。」「それは、そうね。」「じゃ、園長クラスは無理。」 吹き出したり、感動したり……。

さくらさんの、園長室ランチの開催中の会話です。この2つは、私がずっと言い続けてきた言葉です。

子どもにとって価値ある言葉をかけてあげると、より意欲的に学び、子ども集団があるからこそ、学びが豊かになることを感じます。

・『等身大、もうひとりの自分』は、どんな気持ちで作ったの?」「うーん。最高の自分! 作っている時は必死だったけど、完成したら、何だか寂しくなった。」 最高の自分を知っていることに安心しました。先生たちが、一人ひとりの心に寄り添って、ひとりも見捨てない集団作りを実践してくれたおかげだと、身内ながら感謝しています。

人生の中で、幼児期の成長が一番速いと言われますが、さくらさんの、この1年の成長のすばらしさが、このことを証明してくれたように思います。

・「小学校に入学するまでにできるようになってほしいこと」を、さくらさんは、喜んで練習しています。いえいえ、さくらさんだけではありません。シューズを立ったままで履くことも、その1つですが、廊下を歩いていると、ひまわりさんから頻りに呼び止められ、実演を見ることになります。さくらさんに憧れを持つひまわりさんは、何かにつけ、さくらさんに近づきたいという気持ちがあり、強要しなくても、できる事が沢山あります。兄弟、姉妹の育ちと同じです。年齢別の歌でも、お互いに歌い合える事から見ても、異年齢への垣根をはずして育っていることがわかります。

・他年齢に比べて、大幅に人数が少ないせいもあって、何となく目立たなかったひまわりさん。今では、それを全く感じさせません。一人ひとりが自信をもって、自分を出せるようになりました。自分を律し、コントロールできるようになったのも、大きな特徴です。

真ん中に立って、一番不安定な気持ちがあったらうひまわりさんですが、だからこそ、学びは大きかったと思います。

「やっと、さくらさんになれるなあ。それから、小学校6年間、中学、高校、大学かあ。まだまだあるなあ。」と、バスの中でのひまわりさん女の子のつぶやき。しおみの子どもは、大物ぞろい。嬉しくなります。

・「エッ? あの子、ゆりさんだっけ?」間違ふこと、しょつ中で、情けないと思う反面、嬉しいことでもあるのです。

入園した頃がウソのように、たくましくなり、すじ道立ててお話ができるようになりました。聞く力も、お兄さん、お姉さんと同じようにでき、その差を感じなくなりました。

「幼稚園楽しいよ。何が楽しいかって? さくらさんや、ひまわりさんが、いろいろ教えてくれるもん。時には、ひまわりさんに勝つこともあるんだよ。」と、ゆりさん女の子。年上を立てながらも、自分の力で伸びようとするゆりさんでいっぱいです。

・「先生、鬼さんって、そんなに悪いの?ぼく、鬼は恐かったけど、あんなにたくさんの豆を投げつけられたらかわいそうで、投げきらんやった。」と、ゆりさん男の子が、バスの中で、しみじみ言いました。私には応えました。ゆりさんにだって、物事を見分ける力がついているのです。

人生は、福ばかりではありません。ほどほどの鬼は、内に入れてやってもいいのかもですね?

大人時計というものがあるのでしょうか。1年が駆け足で過ぎていきました。

今年度も、また、複雑な思いの3月がやってきました。

1年のしめくりをする一方で、新年度の準備も始まりました。

秋から入園の募集をしてまいりましたが、あそぼう会から17名、他から18名、合計35名の願書をいただきました。

3月になると、異動で、数名、入園があるかもしれません。

潮見幼稚園の教育に共感して入園されるわけですから、面接の時には、入園の理由を聞くことにしています。

ほとんどの理由が、

①在園児がすごく優しく、幼稚園児とは思えないほど落ち着いて、いい顔をしている。ということです。あそぼう会の時のみの触れ合いで、こんなにも感じ取れるのでしょうか。大人にも、第一印象というものがありますものね。

②ホームページを見ていると、お母さん方が、サークル、その他で、幼稚園を楽しんでいらっしゃる様子がわかるし、よい評判が流れている。ということです。



こうしてみると、この1年間、潮見幼稚園は、子どもたちと、お母さん方に支えられ、しおみの進化に、お力添えをいただいたということになります。

友だち同士の関わり、家族との関わり、自然との関わりを深めて、多くの感覚を養った子どもたちが、自分らしい生き方ができますように。そして、子どもへの接し方や、食に関する考え方など、しおみ幼稚園のお母さんにしかできないことを、無償の奉仕で執り行っていたことに、深く、深く感謝しています。

人間の倫理観は、一朝一夕にできあがるものではなく、子どもの頃から成長の中で、いろいろな事を見、聞き、感じながら育っていくものだと思うのです。この、すばらしい、しおみの子どもたちが、りっぱな大人になるために、ただ1つ「人に迷惑をかけてはならない」という精神を、子育てのエッセンスとして育んでいただくことを願いながら、ラストシーンといたします。

ありがとうございました。

